



地域の防災関係機関の方々を対象とした『防災セミナー in 釧路』を開催しました

◆実施概要

2月1日（金）に釧路地方合同庁舎において、地域の防災関係機関の方々を対象とした防災セミナーを開催しました。当日は、約120名が参加し、北海道特有の冬の水災害リスク、釧路地域の災害の動向、最先端の防災に関する取組として全国で注目されているタイムラインの実践的な知見について、3人の講師からご講演いただきました。



参加 約120名

対象 行政、ライフライン等
防災関係機関の皆様

日時 平成30年2月1日（木）
14:00～17:45

会場 釧路地方合同庁舎
5階共用会議室

◆講演1『北海道の冬の水災害リスクに備える』

船木 淳悟 氏 (国研)土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ長



冬期の災害被害を増幅させる氷塊を伴う津波や河川水が氷結し河道を閉塞するアイスジャムについて、海外事例や再現実験により、ご紹介いただきました。

◆講演2『釧路地方の自然災害について』

橋本 勲 氏 気象庁釧路地方気象台 台長



釧路・根室地方の気象・地震・津波災害のご紹介や、各機関で実施したシミュレーション等について分かりやすくご解説いただきました。

◆講演3『タイムライン防災視点で考える防災(行動)計画が、なぜ有効なのか』

松尾 一郎 氏 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授



他地域の水害を例に事前防災行動計画(タイムライン)の有効性についてご解説をいただき、地震・津波を対象としたタイムラインの有用性についてご講演いただきました。

◆参加者の方の感想

- ▶ 当担任水域には釧路川も含まれており、アイスジャムという初めて聞く現象が起こりうる状況にある事が分かり、今後の災害対策を考える中で、大変参考になりました。
- ▶ 気象については、当部の防災対策に直接関わってくることから、今回の講演は大変貴重なもので、更に防災対策について考えていく必要があると考えさせられました。
- ▶ とても参考になりました。組織内でも役割等を各自に理解させるのは困難だが各機関の連携を考えながら、部内でタイムライン的計画を模索したい。